

新話 新製
浮世來
二編

調日一月三	車六冊	若明	藏
冊數	九	不申候	一切御賃渡
記	治光	河石	華京
			番號まて六〇
			藏書は如何
			なる事情ある
			親疎の別なく
			沛自宅へは

3118
7



特
へ13
3118
7

新柳髮新話浮世

床三編

製本
最叢

瀧亭鯉丈編
溪齋英泉画

文榮堂

同
櫻

村田

文好^よ心^{こころ}切^き人^{ひと}と心^{こころ}通^とる。風^{かぜ}程^{ほど}でも多^{おほ}く酒^{さけ}飲^のむ
 て^ても^もお^おく^く繪^え所^{ところ}と作^し者^{もの}と板^{いた}元^{もと}と三^{さん}人^{にん}合^あは
 洋^{やう}と^とも正月^{しんげつ}心^{こころ}乃^{なり}新^{しん}板^{ばん}三^{さん}味^{あじ}多^{おほ}く物^{もの}と傳^{つた}
 人^{ひと}と^とも^も門^{かど}松^{まつ}も東^{あづま}海^{うみ}絵^え画^が本^{ほん}社^{しゃ}敷^{しき}齋^{さい}
 け^ける^る店^{みせ}と^と他^{ほか}の^の軒^{のき}より春^{はる}め^めくる^るの^の結^{むす}ばり
 思^{おも}ふ^ふも^も己^{おのれ}が^が好^{この}む^むの^の道^{みち}い^いる^る世^よの^の口^{くち}入^いりて

魚子と筆者れ取決也。まじりもはる板
 の借候作者仲人其よは抄もはるも
 まじり。請取はる夏乃月。あつと
 由。何き。月見と。一日
 の月。今日。我物者乃。筆紙。抄
 抄らぬ。他作者乃。抄急。

かくかく浅草の只六の虎くうひ。
 観音菩薩の利益。作料。其
 六。本。文。を。出。し。す。て。序。文。や。跋。文。ハ
 垣石の。板元。中。の。忽。後。の
 抄。南。仙。笑。の。投。き。ら。り。抄。の。後。

毎日の山草の如きは。列々易記身作者。
文章堂より移して。柳屋新活の二編目也。
本丁の庵へも入道ハ。三年とありは。しりしが。
近來先生多病して。凡書のか減も。庶幾
も。尚多と。尚多と。何なる。今年ハ。下利で。
弟。世々。世々。と。教の。信。弟。播。遊。亭

釋文が。存。存。其。種。人。の。此。立。序。文。の。これ。如。得。と。
ある。能。有。り。た。押。と。曲。と。く。あり。て。徳。の。の。ハ。二。馬
先生の。門。下。子。連。り。三。書。の。と。採。集。し。る。ま。け。を。此。
師。の。進。子。強。く。未。熟。者。と。二。世。世。傳。人。
本丁庵の。現。と。かり。て。教。訓。高。の。弟。と。採。る。

癸未のま

南仙笑





新板
 御幣川の仇討
 法 紀文大定
あか
あか
 奇談 産の関
うし
 諸方小生所
 叶 海魚
うし
 さくや 廻樹
あか
あか
あか



柳髮新話浮世床三編上卷

瀧亭鯉火編

波世の實不利刀の刃をささるゝ昔八丈の昔
風俗小して今んささるゝ浮世床のさるゝ人と
出づ人の出家侍結商人通もふ通も一たたね
酒房とささるゝれをささるゝせておほく結
人の心よ合磁のかさく同もあき解る冒のつるゝ小

柳上

ささるゝ床もささるゝ
今日の親おほくささるゝ
ちやア、えんふね入利でささるゝ
笛が獨吟り。ア、ささるゝいめりやささるゝ
えんが「イヤんささるゝさんかささるゝアねん
はるゝをささるゝヨ。ささるゝいささるゝささるゝ
でけ床の法利のささるゝいささるゝ



琴通舎
 きんくおん
 えんもふが
 ありてや
 久しき
 らんき
 とりく



俵小楯
 おもひかた
 つとむ
 たの
 あん
 琴松舎
 あん
 な田の
 あり

何程入るが程りのう。かくさるる。おめへさん
 仕ゆをえうけく。そんまきおとあましく。しんま
 扱うなぞうよんやせんせ。ヤアくあましく。あましく
 へありが。いひけねく。ぞんーたのぞ。アレ
 究るんく。あましくあましく。いぬぞろがうんく。
 ちやくせうぞ。イヤコらうのちやねぞ。ドト
 ちやくせうぞ。イヤコらうのちやねぞ。ドト
 ちやくせうぞ。イヤコらうのちやねぞ。ドト

抄上六

のぞく。いんく。いんく。蓋生まご。あましく。あましく
 ありりのう。あましくしてとらてくれ。ア、ア、いんか
 るころあましくよあましく。チヨツ。あましく入
 るぞ。アハ~~~~~。アハ~~~~~。ヤレく金
 持髪よせうととらてくれ。あましくあましく。あましく
 かるねんく。あましくあましく。あましくあましく。あましく
 コレ早く毛とを付てまッ揃へてくらとあましく
 今ういそぐ。いんく。あましくあましく。あましくあましく。

能^{なり}論^{ろん}めその筋^{すぢ}へ汲^ひ山^{さん}ごごりやまごが。男^{おとこ}へごま
ふの^{すけ}て^まで^まて^ま匠^{しやう}を^うごごりやせん。そ^の匠^{しやう}も^もこ^も。
げ^くく^くよる^りく^くあり^やま^まご^ご。その^のと^と集^{あつ}て
糸^{いと}で^でし^しく^く。い^いけ^けく^く彼の^{かの}豹^{ひょう}れ^れ糸^{いと}を^をお^おし^しを^を
「^はら^らぬ^ぬ物^{もの}」^はそ^そご^ご蓋^{えい}を^を明^あく^くく^く虎^こと^とや^やの^の
ハ^は業^{わざ}の^のあ^あん^んご^ご通^とり^り色^{いろ}ハ^ハ黄^{わう}ひ^ひの^ので^でご^ごり
や^やの^のト^と糸^{いと}く^くふ^ふち^ちや^やけ^けて^て又^{また}せ^せく^く。若^{わか}と^とれ^れグ。
虎^この^の王^{わう}で^でご^ごり^りや^やま^まと^と。王^{わう}將^{じやう}を^をだ^だし^しを^を「^はら^らぬ^ぬく^く」
尾^び

妙上十一

「^はら^らぬ^ぬ眼^{がん}で^でご^ごり^りや^やま^まご^ご。あ^あの^の徑^{けい}脚^{きゃく}ハ^ハ金^{きん}糸^{いと}の^の
指^{さし}で^でび^びざ^ざり^りや^やの^のと^と又^{また}せ^せゆ^ゆを^をぬ^ぬ糸^{いと}で^でご^ごり^りや^やま^まご^ご。
糸^{いと}ハ^ハ別^{べつ}銀^{ぎん}で^でご^ごり^りや^やま^まご^ご。と^と指^{さし}を^をお^おし^して^て又^{また}せ^せて^て。
あ^あく^く是^こと^と並^{なら}べて^て又^{また}ま^まご^ごと^と。は^はあ^あの^のら^らく^くと^と。
お^おり^りの^のの^のが^がお^おま^まま^まご^ごサ^サ「^はら^らぬ^ぬく^く」^はら^らぬ^ぬく^く。
「^はら^らぬ^ぬ又^{また}毛^{もう}で^でご^ごり^りや^やま^まご^ご。是^こハ^ハ海^{かい}や^やど^どた^たま^まの^の
窟^{くつ}と^と又^{また}ま^まご^ごて^て毛^{もう}が^がお^おど^どく^くの^のび^びま^まご^ご。世^よの^のよ^よ
る^るの^のま^まご^ごご^ごが^が。け^け毛^{もう}の^のう^うち^ちよ^よち^ちく^く。さ^さら^らん^ん」

老の身よりけり髪もよそ
 され格ぶたも一よりあつて
 おり記

琴通舎



松葉亭松人
 名あつておれ
 とおれおれおれ
 老がさかす
 日だるさかす
 老

八橋舎
 さかすの
 さかすの
 さかすの
 さかすの
 さかすの



さかすの
 さかすの
 さかすの

今お記ぬけは里へ欠出ーだらふと先をしを
つけやとそこうと並び床の端を延よるり。
先よるり橋の中より近ゆくと榮子へあり
からそ川の中をえく。あまのうらまのれみづ
澤やとそこうも二三間あるさ。けれどど
もるんどころととんでえくつるとあまの
袂がぶつてつれ子どもがうてんがめわく
延びらうて。そつと狭へさうらうてえくとあまを
上十八

いをいさく飛る。あまのうらまのれみづでいれな
女のをりたうは伏も移るるでふり芳をおし
後んと。かち久移るるの甘あへんどう
強マアくそで。どふー。あまのうらまのれみづ
おつるせへ。こもさして入るころう。うしろら
あつり押し。あまのうらまのれみづでいれな
あまのうらまのれみづでいれな。あまのうらまのれみづ
おまのうらまのれみづでいれな。あまのうらまのれみづ

忍
語面齋後丸

とておろそ

身むちあけ治田

引とむらふ

あつ板の帯

八橋舎

どんぐりこめ水流ん

軽みひのこれち

たりのみあもた

いし重子



梅上十九

琴樹岡
二喜

捨る

身乃

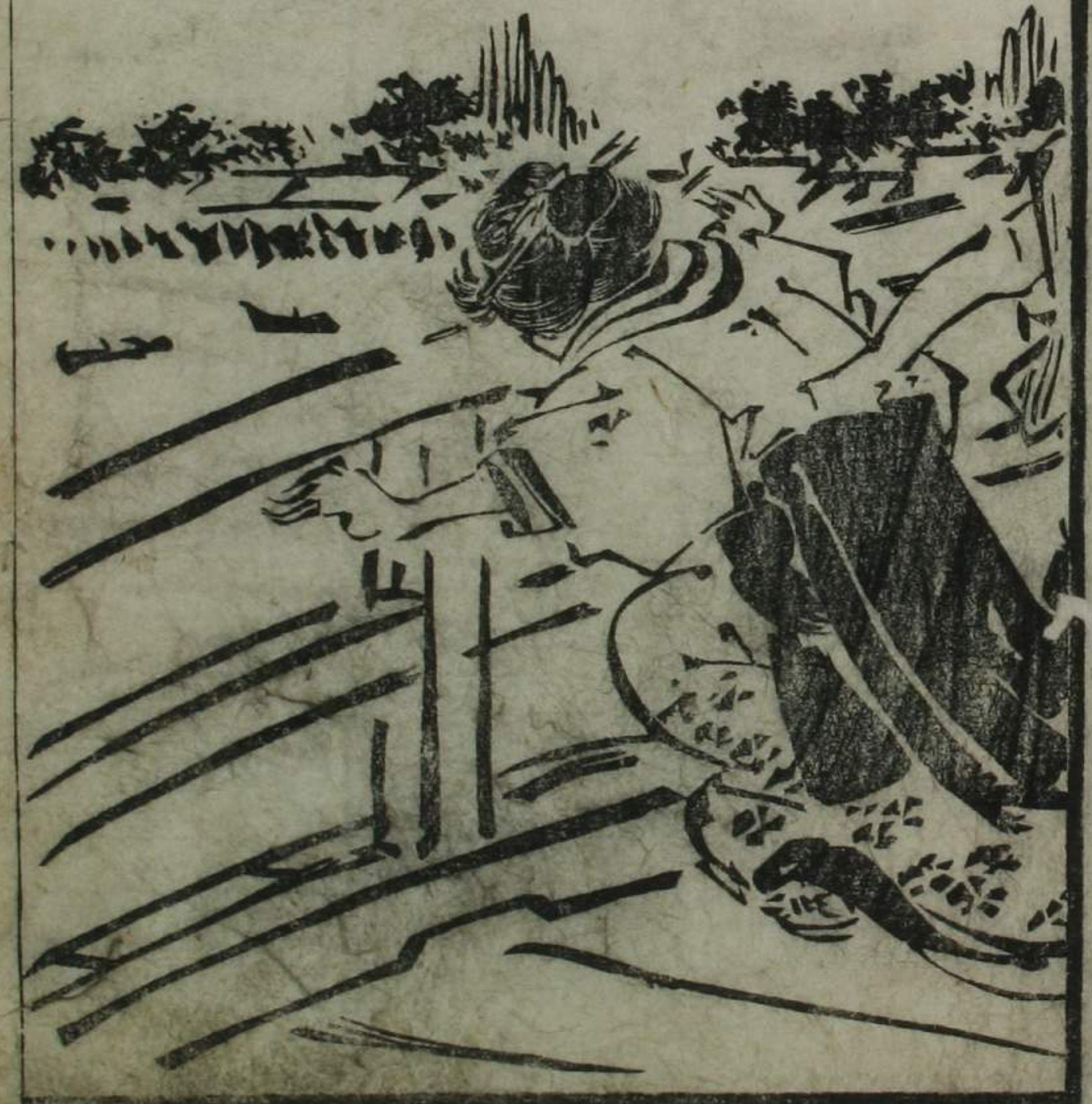
子細を

とくや

そあし巻

余つあむ

云の葉の
はし



だんぐく人まがしと来さうく。是まア和びや
ころいろ。いろを穿て向何客と安んぬる
「そんく」めはもえ掛さうく又さうく
ふいふと入「そんく」下口を穿ての上で
かふあふねるる。量程みぬぐ「そんく」
「そは強店えん。吹売があらや」と「そんく」
「アそんく」ぢやア移く徳がめくハトサア
「ろく又壺がさぐ」と「ホイあんさき。ぶらそこで

抄上廿一

「そそで女のりのもろく。ゲツくと泣のって
「ぢやア」ぢやア「かつらそんぐ子エ」あん
まり人だちがしておぼがころくって。あてくら
移くうろ。ころじもあ。ころをくして。こざうの
ころの女ど。あはがころの箇くつちやア「引んご
比奈ご」密さんマアおぼヨ「あんまんごん
えのがまのひさしねくと帯を押くく。と
引揚そ。激しく向へ渡って先急見世」引揚

めんせうりうを糸げく。ききあうくがころのいらく。用
 をたさきよ。帰って来中。ハ~~~~おめより
 先の女がたんと。きしゆくが。ころあろう。可全
 ちろ丸きりあまけの振どハ~~~~

浮世床三編上 終

